

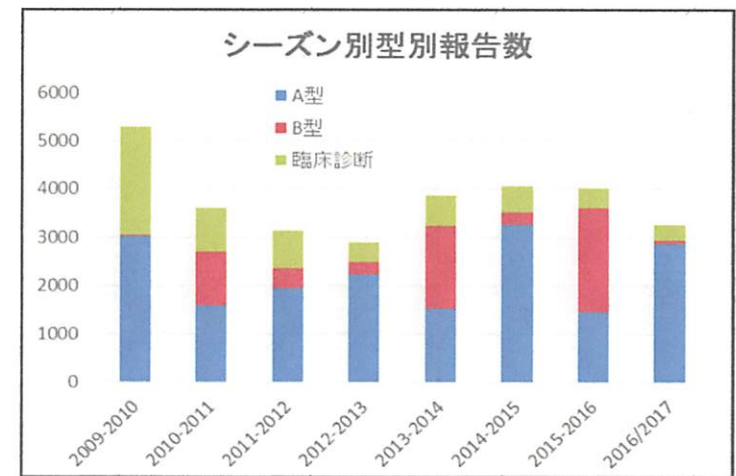
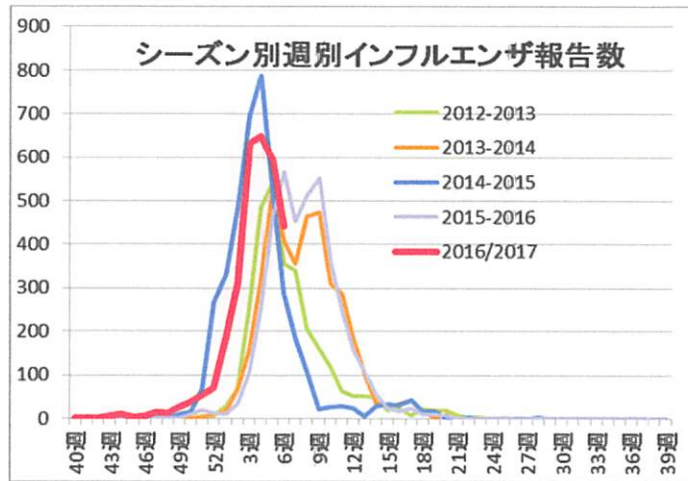
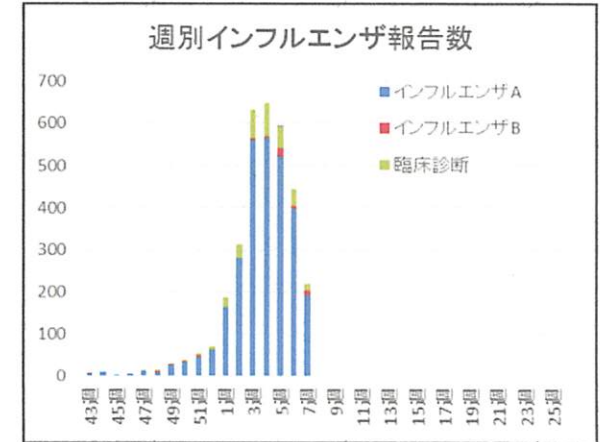
週間感染症情報

2017年6週 2017年2月6日より2017年2月12日まで

麻疹	
風疹	
水痘(みずぼうそう)	1
ムンプス(おたふくかぜ)	2
百日咳	
溶連菌感染症	7
手足口病	
ヘルパンギーナ	
伝染性紅斑	
感染性胃腸炎	25
ロタウイルス(再掲)	
便アデノウイルス(再掲)	
突発性発疹	2
伝染性膿痂疹(とびひ)	2
ヘルペス性口内炎	
アデノウイルス感染症	2
RSウイルス感染症	
マイコプラズマ感染症	9
インフルエンザ(臨床診断含む)	441
インフルエンザA	396
インフルエンザB	8
A+B	

インフルエンザは減少しました。ピークは第4週の648例でした。小学生や幼児のインフルエンザ患者が増えました。インフルエンザBの報告数は増えていませんが、神在地区や昭和地区で集団感染の報告があります。

今シーズンは、インフルエンザAの大流行で終息すると予想されます。第7週は、2月15日(水)までに219例の報告があり、A型192例、B型11例臨床診断16例でした。ピークは過ぎましたが、流行は終わったと安心せず、春休みに入るまでは予防対策を続けてください。感染性胃腸は減少しています。カンピロバクター陽性例が1例ありました。溶連菌感染症の報告は多く、インフルエンザとの合併例もあります。マイコプラズマ感染は、昨年夏ごろよりの流行がまだ続いています。昨年は223例あり、今年も36例となっています。潜伏期間が2~3週間と長いので施設内での流行も数ヶ月になります。インフルエンザとの鑑別も必要となります。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyaiinsoja.webmedipr.jp/>)